

保険係を創設し、本格的に準備作業に入っているとされており、6月中には介護保険制度執行調整委員会を発足し、関係各課との協議を行なうと行こうと考えている。また、本年9月から10月にかけて、試行的に要介護認定モデル事業を実施することになってきている。このモデル事業は、介護保険法の規定に基づいて、医師や専門職の出席を得ながら実際に要介護認定を行なうものであり、介護保険制度施行後の事務の円滑化につながるものとして大変重要な事業と考えている。まだまだ多くの問題点もあろうかと思うが、ひとつひとつ検討を重ねながら準備を進めていきたいと思っている。②現段階では減免制度を利用してもらうことになると思うが、サービスの面等に関しては、今後、検討委員会でも議論していきたい。

## 環境問題

問 ①全国的に大きな社会問題となっているダイオキシン対策だが、当町では野焼や自家焼却についてどのような対応をとっているのか。②空き缶、空きビンのポイ捨て対策として、自動販売機設置業者に、回収ボックスの設置を義務づけることはできないか。

答 ①ダイオキシンはこれまでの調査結果から、廃棄物の焼却

の過程で生成され、発ガン性や免疫機能の低下など、人体に悪影響をもたらす物質であると言われており、千葉県では、平成8年度に県内のゴミ焼却施設55箇所についてダイオキシン排出の実態調査を実施するなど、各焼却施設の指導を行なっている。当町では、かつて、ゴミの減量化を目的に、簡易焼却炉の普及を図った経緯があるが、当時はダイオキシンの問題は予想もできず、その時点では最善の施策であったと思う。しかし、このように環境問題が問われている状況の中、今後は、各家庭からのゴミのうち、ダイオキシンの発生源となるビニール製品等は分別して環境衛生組合へ出してもらおうよう推進するとともに、家庭でのゴミ焼却炉の減少を図つ



空き缶、空きビンのポイ捨て対策も大きな環境問題の一つ

て行きたいと考えている。②当町にも相当数の自動販売機が設置されているが、大半は個人の軒先に設置され、回収ボックス等も備え付けられているようである。問題は、道路沿い等に設置されている自動販売機だが、義務付けまでは難しいかと思うが、不法投棄の防止対策や町の環境美化のためにも、今後はできる限りの協力を求めたい。

## 農業問題

問 米の減反政策についてどのように考えているのか。また減反面積を減らすための対策は。

答 米の需給均衡と価格の安定を図っていくためには、生産調整を着実に実行していくのが重要な課題とされ、昭和46年から減反政策が実施されてきた。稲作農家のみならず米を作らない

いではしいというのは大変酷な話だが、米余りの現状から毎年下落している米価に歯止めをかけるには、止むを得ない政策かと思われる。特に近年は、食生活に対する嗜好のあり方等から、米の消費が減少の一途をたどり、昭和37年当時の一人当りの米消費量約2俵が、現在では半分以下に激減しているのが実態である。今後は、機会があることに、米消費の拡大を呼び掛けながら、減反面積を少しでも減少させる

よう働きかけて参りたい。

## 高齢者対策

問 ①働く意欲のある高齢者のためにシルバー人材センターを設立し、公共施設の維持管理や福祉に係わる仕事を委託してはどうか。②当町は、公共バスの運行が駅を中心に数路線しかない、車に乗れない人は大変不便をきたしていると聞くと対策は。

答 ①シルバー人材センターは、千葉県内で現在37の市や町で設置されている。人生80年の時代と言われ、就業生活から引退後の生活も長期化しており、60歳を過ぎてからもまだまだ仕事をしたい、今まで培ってきた知識や技能を生かしたいという健康で働く意欲のある高齢者も増えてきているのが実態である。当町でも現在、近隣の市町から資

料を取り寄せながら人材発掘とその登録、派遣方法等について検討しているところであり、今後は、人材センターに対する理解を深めてもらうためのPRや、利用者の立場に立った需要に関するアンケート調査等も行つて行きたいと考えている。②一時期は、横芝駅を起点として数多くの路線バスが運行されていたが、車社会の進展に伴い、各家庭に自家用車が普及するにつれて、採算割れする路線が出始め、現在では、国や県、町の補助金で運行されている3路線のみとなっている。今後、バスの運行を増やすにはそれに伴う運営経費や現在運行している路線との兼ね合いなど、多くの問題もあるため、これらを慎重に調査検討しながら取り組んで行きたいと考えている。



高齢者の培ってきた豊富な知識や経験を生かした活力ある高齢化社会を目指して